

平成30年度学校評価 評価書

日之影町立高巣野小学校

【 4:期待以上 3:期待通り 2:やや期待を下回る 1:改善を要する 】

評価項目	達成目標と方策	自己評価				学校の自己評価の所見 (改善に向けての具体的な取組)	第三者評価
		児童	保護者	教師	全体		
確かな学力の定着 (教務部)	実質45分の授業を充実させ、「分かる授業」「鍛える授業」「感動のある授業」を展開し、確かな学力を身につけた児童を育成する。	3.4	3.2	3.1	3	授業の工夫改善について、4つのチェックポイントを踏まえた指導法の研究を実施し、児童、保護者、教職員からもよい評価を得た。現在校内で行っている実践的研究をさらに定着させ、教師自身が児童一人一人の理解度を把握しながら、より確かな学習内容の定着とさらなる発展に向けて「分かる」「できる」授業に心がけていく。	3
	指導方法の改善に努め、分かる授業を展開し、諸学力テストで全学年、ほぼ全領域で平均(全国・県・町)を上回るようにする。			2.6	3	H30年度全国学力調査に関して、国語では、要旨をまとめる記述式の問題に苦手意識をもつ児童が見られる。算数では、習熟の必要性、複合問題(8問題)への経験不足を感じられた。「みやざき学力調査」での結果をみると、国語や算数の基礎的・基本的な知識は、県平均を上回っているものの、算数の活用問題について、県の平均を10ポイント下回っている。4学年においては、国語・算数とも平均を下回っており深刻な状態である。その他の学年においては、学年によっては個人の能力の差が大きく、一斉指導が難しい学年もある。また、長文読解や思ったことの原因を書き力や、相手に伝えるための説明文を書き力が、やや劣っていた。 単元毎に行う評価テストの復習も繰り返し復習を行い、基本的な内容の定着に向けて努力している。次年度は、集中力の育成を加えてさらなる学力の伸長に努めるとともに、最後までやり終えることのできる力を育成したい。	3
	個に応じた指導方法の工夫改善を図ることによって、資料等を工夫して分かりやすく伝えたり、自分の思いや考えを伝え合うことができるようにしたりする。	3.4	3.1	2.8	3	自分の考えを理由を付けて伝える力を育成している。しかし、自分の思いや考えを積極的に発言するには抵抗を感じる児童も多い。今後も、聞く態度の育成等の基本的な学習訓練を発達段階に応じて徹底させることにより、力を付けさせていきたい。	3
	読書指導や読み聞かせの充実を通して、1週間に1冊以上借りる等の個人読書目標冊数をもたせ、80%以上の児童が目標を達成できるようにする。	3.3	2.4	2.6	3	読み聞かせを行ったり、個別に読書目標を設定したりして、児童が読書に親しみやすい環境づくりに心がけている。来年度は、読書の楽しさを味わえる活動を工夫することで、児童の読書への興味・関心を高めていきたい。また、学校だけではなく家庭と連携して家庭読書の啓発へと広げていく取組を工夫していきたい。	3
豊かな心の育成 (生徒指導部)	思いやりのある言葉かけや行動が日常的にできるようにする。	3.5	3.1	3.1	3	「誰とでも仲よく遊ぶ」、「思いやりのある行動をとる」の項目は児童、保護者、教員いずれも80%を超えており、普段から思いやりのある行動はできている。しかし、「ていねいな言葉」については児童に比べ保護者や教員は低い評価となっている。これらは、日常の返事やお願い事などが原因だと思われる。今後も、相手を「くん」「さん」付けで呼ぶ等、児童の思いやりのある言葉かけや行動を集会の場等で積極的に取り上げ、称賛し、意識させるとともに普段の言葉遣いについて指導の徹底に努めたい。	3
	学校での朝のボランティア活動や地域におけるボランティア活動や行事等に85%以上の児童が進んで参加できるようにする。	3.6	3.5	3.3	3	児童は地域のボランティア活動や伝統行事によく参加している。学校においても朝のボランティア活動や清掃活動に積極的に取り組めるようになってきている。今後、さらに家庭や地域でも自ら進んでボランティア活動ができるように、授業や特別な教科道徳等を通して、みんなのために積極的に活動できる児童の育成に努めていきたい。	3
	あいさつや礼儀の指導を徹底し、家庭や地域でのあいさつやお礼など85%以上の児童が達成できるようにする。	3.7	3.4	3.0	3	昨年に引き続き、児童、保護者、教員ともに高い評価を得ている。地域の人たちからも児童のあいさつについてお褒めの言葉をいただいている。学校だけではなく地域においても進んで大きな声であいさつができるように今後も継続した指導を実施していきたい。	3
	学校施設の整備を図り教育環境を充実させる。		3.3	3.0	3	学校の施設設備、遊具等については、安全点検を毎月実施し、結果をもとに、迅速に対応、改善を図っている。特に、施設・遊具等の老朽化に伴う腐食などについては、管理職・事務主任を含め教育委員会の指導の下に対応している。児童にも遊具の使い方や扱い方の指導をもとに、児童の安全意識を高めている。今後も保護者、地域、町と連携しながら教育環境の充実、安全確保を図っていきたい。	3
たくましい体の育成 (保体部)	体育指導法の充実を図り、「県体力テスト目標設定システム」を活用した個人目標を設定し、70%以上の児童がその目標を達成できるようにする。	3.9	3.2	3.1	3	新体力テストの結果により、児童は自分の課題を確認し、体育の時間や業間の「らんらんタイム」で課題克服のための練習に熱心に取り組むことができた。次年度も体育の授業における柔軟運動やサーキット運動等を取り入れるとともに各強化週間等をもとに、児童の体力向上に努めていきたい。	3
	基本的生活習慣の定着に向けての取組や立腰指導を徹底し、85%以上の児童が達成できるようにする。	3.3	3.1	3.0	3	すこやかアウトメディアや「早寝、早起き、朝ごはん」立腰指導について、指導の徹底を図った。児童、教職員いずれも肯定的回答が約80%程度だったが、保護者については、肯定的回答が50%と低かった。次年度学校保健委員会や保健だよりを通して検査・調査結果の報告や協力を依頼して家庭と連携して児童の健康保持・増進に努めていきたい。	3
	「弁当の日」や日常の給食指導を充実させ、食に対する意識を向上させる。	3.3	3.1	3.2	3	食の指導については、学級担任だけではなく養護助教諭や宮水小学校の栄養教諭と連携して授業や給食指導を通して行っている。「弁当の日」については、各学年の発達段階に応じたコースを設定し、無理なく行っている。感想などから興味関心も高くなってきている。次年度も、家庭との連携を図りながら取組を継続していきたい。	3
	「学校で天気の良い日には、昼休みに友達と外遊びをしている」と答える児童が90%以上になるようにする。	3.6	3.2	3.2	3	多くの児童が、昼休みや放課後外で遊んでいる。家庭においても、外遊びを勧めており、80%近い家庭が肯定的な回答をしている。高学年になるにつれ、外遊びを敬遠する傾向にある。遊具の整備や児童が楽しめる外遊びの提案を行い、運動好きな児童の育成に努めていきたい。	3